

安藤はるみ 県議会だより

2021年8・9月号



連絡先 安藤はるみ事務所（弘前市宮川2丁目3-2 TEL：0172-35-7021） HP <http://ando-harumi.com/>

6月14日から29日まで、第306回定例会（2021年6月議会）が開催されました。安藤はるみ県議は21日、一般質問を行いました。

コロナ危機から県民を守るための手立てを

急がれるワクチン・検査体制の充実

五輪開催と並行してコロナ感染が急拡大しています。6月議会の時点では、県内の感染状況は落ち着いていましたが、安藤県議はワクチン体制の整備や検査体制の充実などを通じて、第5波を封じ込める提案を行いました。

感染者情報の公表は自治体ごとに

保健所を持たない弘前市などから、感染者数の公表を自治体別にしてほしい、という声が寄せられています。安藤県議は、的確な予防策につなげるためにも自治体ごとの公表をすべき、と迫りました。那須下淳健康福祉部長は、「適切な公表のあり方について、市町村等の意見を聞きながら、引き続き検討していく」と答弁しました。

中小零細事業者支援策実施を

様々な業種が事業継続の瀬戸際にたたされています。安藤県議は、県の直接支援を含め、積極的な支援を行うように求めました。三村申吾知事は、市町村と連携して資金繰り支援にとりくむとともに、「本県独自の支援金制度を創設する」と答弁しました。県は7月から、事業継続支援事業をスタートさせました。

生活困窮者への支援強化を

安藤県議は、生活困窮者への強力な支援を求めました。県はこれまで、生活福祉資金や住居確保給付金への支援を行っていますが、那須下健康福祉部長は新たに生活困窮者自立支援金の支給とひとり親に対する住宅支援資金貸付事業を行う、と答弁しました。いずれも必要な事業ですが、ハードルが高く、枠が狭く、改善が必要です。

米軍オスプレイが小川原湖で超低空飛行訓練 無法行為はただちに中止を



米空軍横田基地所属の CV22 オスプレイが、小川原湖で湖面ギリギリの飛行訓練を繰り返していたことが分かりました。事前通告もなく、湖の一部が不法に占有されていたこととなります。

安藤県議は7月6日、訓練中止と情報公開などを求めるよう、県に申し入れを行いました（写真下）。



【写真提供＝市川俊光・党東北町議】いずれも7月1日18時20分すぎに撮影。写真上は湖面に水しぶきをあげるほどの低空でホバリングする様子。写真左は、つりあげ訓練を行っている様子。いずれも目撃されたのは、米軍に提供されている水域の外です。

むつ中間貯蔵施設の共用化問題

共同利用構想は協定違反

中間貯蔵施設に、東京電力と日本原電以外の電力会社から使用済み核燃料を搬入する構想を示した問題で安藤県議は、「協定違反。いかなる条件でも断るべき」と提起しました。

ジェンダー平等を推進する県の役割りを

安藤県議： ジェンダーギャップ指数が世界で120位。この現実を変えるための県のとりくみを

三村知事： すべての人が性別にかかわらず個人として尊重され、個性と能力を十分発揮できる社会の実現が必要

パートナーシップ 制度の導入を

安藤県議は、弘前市で昨年9月、東北で初めて同性カップルに対して婚姻と同等の関係を公認し権利を保障するパートナーシップ宣誓制度が導入されたことを紹介し、県のとりくみを聞きました。

佐々木あつ子環境生活部長は、「県民意識調査や当事者からの聞き取り内容をふまえ、国などの動向を注視したい」と答弁しました。

性的マイノリティへの支援 学校でも強化を

安藤県議は、学校での性的マイノリティへの支援強化として、男女混合名簿の導入やトイレ、更衣室、制服などへの配慮を求めました。

和嶋教育長は、「県立高校で女子のスラックス導入など制服を選択しているところもある」「スクールカウンセラーの面談で悩み軽減を目指している」など答弁しました。

学校のトイレに生理用品を

安藤県議は、生理用品を学校のトイレに設置することも視野にいれ、生理用品の無償提供を行うべきだと提起しました。

和嶋延寿教育長は、「生理用品を保健室に常備し、申し出があった場合、養護教諭が児童生徒の状況把握して対応する」「必要としていることが言いだせない児童生徒にたいしてのトイレ設置などは、他県の状況を踏まえて研究していく」と答えました。

高等学校の再編は、何よりも住民合意を大事に

少人数学級・小規模学校を選択肢をつくり、行き届いた教育の充実を



県教育委員会は、県立高校教育改革推進計画にもとづく高校統廃合を進めています。安藤県議は、7月に公表予定になっている第2期実施計画案（2023年～27年度）について、「公表後、地区懇談会やパブリックコメントで寄せられた意見を尊重し、地域が納得する方向で計画を策定すべき」と指摘。和嶋延寿教育長は、「(10月の成案に向けて)多くの県民の理解が得られるように取り組みたい」と答弁しました。

●6月議会後に公表された「第2期実施計画」(案)の主な内容

中南

▶弘前中央と弘前南、柏木農業を1学級減

西北

▶木造と五所川原農林を1学級減
▶鯉ヶ沢を1学級規模の地域校に

東青

▶青森西・浪岡を統合し青森西校舎に
▶青森南と青森中央で1学級減

下北

▶大湊・むつ工業を統合しむつ工業に
▶大間を2学級規模の地域校に

上北

▶三沢・野辺地を1学級減
▶六ヶ所を1学級規模の地域校に

三八

▶八戸東・八戸北を1学級減
▶三戸を1学級規模の地域校に

議長と副議長が任期途中で退任

共産党県議団は、議長選・副議長選で民主連合議員に投票

6月議会閉会直前に森内之保留議長と櫛引ユキ子副議長が、「一身上の都合」を理由に辞任しました。ただちに議長選と副議長選が行われ、議長には三橋一三議員、副議長には蛭沢正勝

議員が新たに選出されました(いずれも自民)。

日本共産党県議は、議長は田名部定男議員、副議長は今博議員に投票しました。いずれも民主連合会派です。

●安藤県議団長の談話

本来、議長・副議長は4年間の任期を全うすべきであり、今回の辞任劇は自民党内のたらいまわしにすぎません。議長・副議長選挙にあたっては、自民党に対抗する勢力の結集を重視し、団として民主連合議員に投票しました。